

コンロンソウ

Cardamine leucantha

アブラナ科

名前の由来

中国の崑崙山脈によるという。漢字名：崑崙草



コンロンソウ

形態的特徴

高さ40~70cm、直立するが上部でやや枝分かれする。全体に短毛がある。葉は奇数羽状複葉で5か7枚の小葉に分かれ、葉軸に2~3対と頂に1枚の小葉がつく。小葉は先がとがった楕円形で、縁には鋸歯があり、両面に短毛を密生する。花は白色で径6~8mm、4枚の花弁が十字形につき、枝の先に集まってつく。

類似種と見分け方：オオバタネツケバナ、エゾワサビ。オオバタネツケバナの小葉は3~13枚で、縁は不規則に切れ込み先はとがらない。エゾワサビの小葉は丸みを帯びる。

生育環境・分布

やや湿った林内に生育する。

分布：国外分布は、朝鮮・中国東北部・シベリア東部・アムール・ウスリー・樺太に分布する。

国内分布は、北海道から九州に分布する。

北海道内分布は、全道的に分布する。

十勝地方生育状況は、やや湿った林内に普通に見られる。

生活史

開花時期：5~7月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

モンシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウの幼虫時の食草となっている。

興味深い話

■若芽や若菜が食用となる。ゆでておひたしにしたものが美味しく、バター炒め、てんぷら、汁の具にしてもよい。

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
ワシ・タカ
鳥類